

優 秀 賞

棒の手を父から習えば秋の風まちのまなざしあたたかくなる

旭丘小五年 日比野 一晴

「選者のことば」一晴君が公園か境内でお父さんから棒の手を習っている様子を、近くの人や木や花が温かく見守っている情景が浮かびます。汗をかいた後の秋風も涼しさを運んでくれたことでしょう。回りをよく観察してやさしいことばで表現しているのがいいですね。

お兄ちゃんとうせいびょういんはこばれてなろうときめたきゅうきゅうたいいん

旭小二年 野本 京二郎

「選者のことば」きゅうきゅうしゃが来てお兄ちゃんを助けてくれた時、京二郎君はそこにいたのかな。お兄ちゃんを助けてくれてありがとう。自分は大きくなったら人の命を救う「きゅうきゅうたいいん」になるぞってカッコイイ。ベンキョウもたいりよくも必要なしごとです。がんばろう！

大好きな弟の涙あふれだす心の中でつぶやく「ごめん」

旭中二年 上間 律

「選者のことば」大好きな弟の目から涙があふれている。作者は原因は自分にあると知っているようですが、心の中でしか謝ることができません。お兄（姉）ちゃんの プライドか、成長期の照れ隠しなのかな。歌のほうはとても素直に正直に表現できていて、好感が持てます。是非弟さんにこの短歌を見せましょう。